（重文）聖徳記念絵画館　多機能トイレ

TOTO

外観

1926年（大正15年）竣工された、わが国最初期の美術館建築。2011年（平成23年）に国の重要文化財に指定。外観は花崗岩による重厚な仕上げ、館内は、大理石やタイルにより壮麗に飾られる。

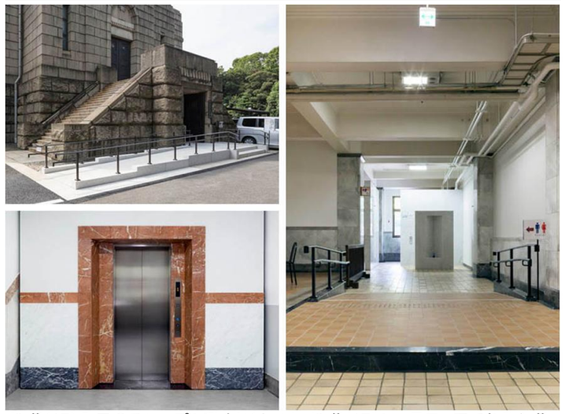
明治神宮外苑全体

明治神宮外苑は、聖徳記念絵画館をはじめ、神宮球場、テニスコート、ゴルフ場など近代的な各種スポーツ施設が造成されており、1年を通じてスポーツや日本文化を学ぶ場として、多くの人々に親しまれている。

さまざまな工夫

既存の窓を生かしながら、オストメイトの鏡を施工。（右上）既存大理石と新設大理石の調和は、何度も打合せ・検証を重ねた結果、違和感のない仕上がりになっている。（右下）

バリアフリー化工事



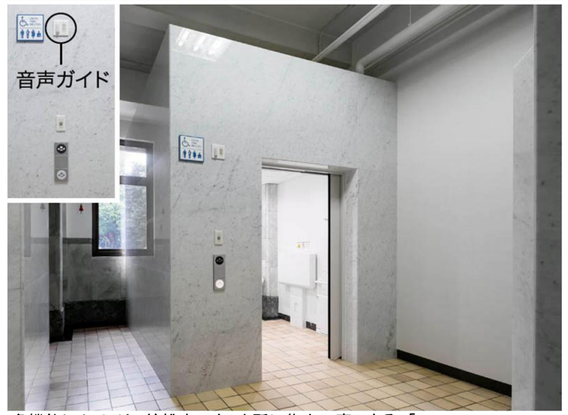
地階（1F）入口のスロープと手すり（左上）、地階（1F）と展示フロアである主階（2F）をつなぐエレベーター（左下）、トイレ前スロープ新設や手すりの設置、段差解消などバリアフリー整備を実施した。

多機能トイレ新設前後

新設前　　新設後

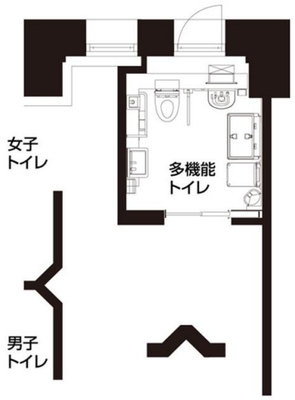
絵画館のトイレは、地階（1F）にある。トイレ前の広間に、既存の壁・床を残し、多機能トイレを設置。館内空間の融和とプライバシーに配慮し、空間や壁材の大理石と調和する目隠し壁を設置している。

多機能トイレ入口



多機能トイレには、給排水口を1カ所に集中工事できる、「RESTROOM ITEM 01」多機能トイレパックを採用。トイレ入口には視覚障がい者に配慮し、音声ガイドも設置されている。

図面



多機能トイレ設置にあたり、給排水工事は、床タイルをはがし、地下を掘り、外配管に給排水管をつなげた後、元通りの状態に剥がしたタイルを戻す、「生かし取り」工法を実施。

＜参考＞既設男女トイレブース

既設トイレでは、高齢者の来館が多いことから、数年前に、既存の男女トイレを改修し、足腰に負担がかからず安心して利用できるように、和式便器から洋式便器へと取替え工事を実施している。

多機能トイレ 1/2

洗面器からオストメイト対応汚物流しまで、カウンター面のライン高さを750mmで統一したフラットカウンターを採用。シンプルなデザインながら、水平ラインに視線が誘導されるため、目的の器具が見つけやすい。

多機能トイレ 2/2

乳幼児から小さなお子様まで、さまざまな年齢層のお子様連れに配慮して、ベビーシートやベビーチェア、フィッティングボードが完備されている。

建築概要

名　　称	（重文）聖徳記念絵画館
所 在 地	東京都新宿区霞ヶ丘町1番1号
施　　主	明治神宮外苑　聖徳記念絵画館
設計監理	株式会社 雄建築事務所
技術支援	株式会社 文化財保存計画協会
施　　工	株式会社 安藤・間 首都圏建築支店
工事期間	（改修）2016年（平成28）年5月～9月

水まわりの特長

＜多機能トイレ新設の経緯＞

重要文化財である聖徳記念絵画館は、明治天皇・昭憲皇太后の聖徳を後世に伝えるために造営された明治神宮外苑のシンボル的な建築物。館内に展示される壁画80枚は、明治天皇を中心に成し遂げられた、維新の大改革、その輝かしい時代の勇姿と歴史的光景を一流画家たちが描いた芸術作品であり、貴重な歴史資料として高く評価されている。絵画館は、展示フロアである主階（2F）と事務所・絵画館学園・トイレで構成される地階（1F）の地上2階建ての構造。外苑誕生から90年目の節目となる2016年（平成28年）に、バリアフリー化整備の改修工事を実施。車いす使用者のトイレ対応に、スタッフが車いすを担いでの階段の昇降補助が必要だったことや乳幼児連れのおむつ替え対応スペースがないなどの課題に対応した。

＜トイレの特長＞

重要文化財であるため、壁床材の大理石やタイルへの開口や損傷規制を順守すること、さらに絵画館の空間デザインとの調和が重要視された結果、「RESTROOM ITEM 01」多機能トイレパックを採用。器具の使いやすさに空間の美しさを兼ね備えたデザイン性、給排水口を1カ所に集中できる点が評価された。施工は、「生かし取り」工法により、床タイルをはがし、配水管を設置した後に、タイル貼りを元の状態に戻す工事を施している。

2016.11 作成　無断複製・転載禁止　（C）　TOTO. LTD. 2016 All Rights Reserved　35026